

【活動のご報告】

2013年インド洪水に対する赤十字の取り組み



インド赤十字社から提供されたテントで避難生活を送る被災者（2013年6月）

～ みなさまのご支援ありがとうございます ～

2015年3月



インド

首都：ニューデリー
人口：12億1057万人（2011年国勢調査）
面積：328万7469km²
言語：連邦公用語はヒンディー語、ほかに憲法で公認されている
州の言語が21
宗教：ヒンドゥー教80%、イスラム教13%、キリスト教2%他

1. 災害の概要

- 発災時期：2013年6月中旬
- 発災場所：ウッタラカンド州
- 死者数：1000人
- 行方不明者数：5700人以上
- 総被災者数：50万人



被害の大きかったインド北部のウッタラカンド州は、背後にヒマラヤ山脈を抱く急峻な山岳地帯です。ヒンドゥー教の聖地を巡る巡礼者や、世界各国からの登山客を魅了し、シェルパ（登山ガイド）などの観光業で生計をたてる人も少なくありません。

しかし、例年をはるかに上回る大雨が続いた結果、一帯で洪水や地滑り、鉄砲水などの大規模災害が多発。山の斜面がえぐりとられるように、州内15か所で発生した地滑りにより、6000人以上が死亡、行方不明となりました。

また、地滑りや落橋による道路の寸断のため、一時は1300もの村が孤立し、険しい山岳地帯での救助活動は難航。インド軍は過去最大規模のヘリコプターによる救助活動を展開しました。

2. 緊急救援活動

2.1 インド赤十字社および国際赤十字の活動

- 期間：2013年6月から12月（6ヶ月）
- 活動地：ウッタラカンド州（インド北部）
- 対象者数：約5000世帯（2万5000人）

インド赤十字社（以下「インド赤」）は、日ごろから災害対応の訓練を受けているインド赤のボランティアを動員し、発災直後より、孤立した人々の安否調査や、応急処置、こころのケアなどにあたりました。

同時に、国際赤十字と連携し、家を流された被災者のためのテントや、避難生活に欠かせない衣類や衛生用品などを調達し、ボランティアやポーターの協力を得てアクセスの悪い被災地に届けました。また、被災地に給水設備を立ち上げ、安全な飲料水を提供しました。

- 100人以上のインド赤のボランティアや初動対応チームが、家族と離ればなれになった被災者のための安否調査や、応急処置、こころのケアのほか、下記救援物資の搬送などを実施。



孤立した被災地に救援物資をかついで届ける
インド赤ボランティア©IRCS

- テント 516 張、毛布約 5600 枚、ビニールシート約 1600 枚、ストーブ約 1100 台、キッチンセット約 1000 セット、衣服約 3600 枚、ほか蚊帳、衛生用品などを配布。
- 断水した4つの地域に、合計6台の浄水タンクを設置し、5500 人分の安全な飲料水を提供。
- 1200 世帯（約 6000 人）に対して、応急処置を行ったほか、浄水タブレットを配布し、手洗いなどの衛生知識の普及に努めた。
- 國際赤十字は6月23日に、災害救援緊急基金（DREF）から479,715スイスフラン（約 5021 万円）をインド赤に対して拠出し、インド赤の上記救援活動を支援。



衣類や衛生用品などを受け取った被災者©IRCS



断水した地域に浄水装置を設置するインド赤ボランティア©IFRC

2.2 日本赤十字社の活動

- 日本赤十字社（以下「日赤」）は、6月下旬から7月上旬にかけて、医師、事務職員の2人をインドへ派遣し、インド赤や国際赤十字とともに最も被害の大きかったウッタラカンド州で現地調査を行いました。
- 日赤は、本災害への支援のための救援金を募り、日本の皆さまから 2300 万円の支援が寄せられました。この資金は、インド赤十字社が行う救援活動に役立てられました。



被災者の状況を聞き取る日赤の医師

3. 救援金の使途

日本の皆さまからお寄せいただいた約2300万円（※1）の海外救援金は、インド赤の救援活動支援のため、下記のとおり使われました。※1：23,172,478円（平成26年2月28日時点において日本赤十字社本社で受付を確認した金額）

国際赤十字 DREF（※2）への拠出	150万円
日赤職員派遣	176万円
インド赤救援物資補充（サリー、毛布、蚊帳等）	1115万円
インド赤災害対応能力強化	743万円
事業管理費	133万円
合 計	2317万円

※2 DREF：国際赤十字の災害救援緊急基金

～みなさまのご支援ありがとうございました～

日本赤十字社による2013年インド洪水支援の活動詳細や、国際支援活動に関する情報はホームページ（<http://www.jrc.or.jp/>）をご覧ください。